第 68 回　日本語教育方法研究会（於　立命館大学大阪いばらきキャンパス）

発表申込のご案内

申込締切：日本時間　2027 年 1 月 14 日（木）13 時

2026.11.16.JLEM 事務局

会員の皆様へ

第 68 回研究会を 2027 年 3 月 22 日（月祝）に立命館大学大阪いばらきキャンパスにおいて開催いたします。発表を申し込まれる方は、以下の点にご注意ください。

０）発表内容

0-1）日本語教育との関連・日本語教育方法発展への寄与

下記の会則第 2 章第 4 条を十分に理解し、日本語教育にどのように関連し、日本語教育方法の発展にどのように寄与するかを会誌原稿とポスターの両方に明確に示してください。明確でない場合、申込の取り下げをお願いする場合があります。

> 第 2 章　目的・事業
> 第 4 条　本会は、会員相互の協力によって、日本語教育の現場に役立つ、日本語教育方法に関する実践的かつ科学的・実証的研究調査を推進し、この研究調査に関して情報の交換を行うことによって、日本語教育の質の向上を図ることを目的とする。

日本語教育方法研究会会則　kaisoku2015.pdf（jlem-sg.org）

JLEM 研究会誌は査読誌ではありませんので、公開された文章の責任は執筆者にあります。
そのため、編集委員会では基本的に会誌原稿の内容の審査はしません。

ただし、日本語教育方法研究会会則第 2 章第 4 条（「0-1）日本語教育との関連・日本語教育方法発展への寄与」参照）に照らし、発表しようとする内容が前条から著しく逸脱していると考えられる場合、編集委員会はその旨、会長および事務局に報告します。必要に応じて、会長、事務局、および編集委員会で協議を行い、協議の結果を編集担当者または事務局が発表者に伝えます。

0-2）オリジナリティのある、未発表の研究であること

すでに他学会で発表されたもの、投稿中のものはご遠慮ください。

0-3）研究倫理の遵守

研究上の倫理を踏まえた内容としてください。捏造、改ざん、盗用、二重投稿の疑いがあるもの、**また、著作権侵害の恐れがあるもの**は受け付けません。

＊著作権に関する参考資料

文化庁著作権課（2024）学校における教育活動と著作権　令和5年度改訂版
https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/pdf/93869701_01.pdf

0-4）そのほか
特定の個人・機関・教材等を誹謗中傷しているもの、特定の教材・商品・サービス等の宣伝にあたるものは受け付けません。

１）発表成立の要件
研究会会誌への掲載、ならびに、ポスター発表完了をもって発表成立とみなします。

２）発表方法
第68回研究会では、以下の方法でポスター発表を行います。
①最大でA0版（横840㎜　x　縦1189㎜）に収まるように印刷したポスターを、研究発表当日会場に持参し、割り当てられた発表ラウンドにしたがって、所定の場所に貼りだす。
②割り当てられた発表ラウンドの中で、発表+質疑応答を何度か繰り返す。
③必要であれば、関連資料・実験材料の配布や展示をしてもよい。
④発表ラウンド終了後、ポスターや資料を片づけ、次のラウンド発表者に引き継ぐ。

３）発表資格について
3-1）会計年度
JLEMでは、4月から翌年3月までを会計年度としています。
例　2026年度＝2026年4月～2027年3月

3-2）発表資格
発表者全員が2027年1月7日（木）時点で会員であり、2026年度の会費を支払い済みである必要があります。
会員の方は、2027年1月7日（木）までに2026年度の会費納入を完了してください。2025年度分会費が未納で、1年分の会費3000円を振り込んだ場合、2025年度の会費に充当され、2026年度の会費は未納扱いとなるのでご注意ください。
また、新たに入会される方は2027年1月7日（木）までに入会申込・会費納入の両方を完了してください。締切日に会費を振り込まれますと、確認に時間がかかる場合があります。時間に余裕をもってお手続きください。
期日の翌日（1月8日（金））以降の会費納入、入会申込には対応できません。

会費納入状況は当研究会ウェブサイトで確認可能です。申込をされる前に、発表者全員が各自の会員ページで会費支払いが済んでいることを必ずご確認ください。
https://secure.jlem-sg.org/
「JLEM会員専用サイト　会員ログイン」→「会費納入状況」

振り込みは、JLEM で会員として登録している名前で行ってください。大学名や別名義での振り込みですと、会計担当が入金を確認できません。また、「大学名＋お名前」等、振込の名義が長くなる場合、ゆうちょ銀行のシステム上では振り込み名が途中までしか表示されない場合があります。ご登録の名前以外で振り込みを行う場合、必ずその旨下記の問い合わせフォームよりご連絡ください。

また、振り込む方の名義が外国語で表記される場合（特に中国の方）、ご登録の会員名が確認できないことがよくあります。カタカナ名で振り込んでも、ゆうちょ銀行のシステム上では振り込み名がピンインで表記されることが多いようです。そのため、ご登録の会員名（漢字とカタカナのみ）を検索して確認するのに時間がかかっています。お振り込み後、問い合わせフォームよりご連絡ください。

https://secure.jlem-sg.org/contact

１月 14 日（木）13 時の発表申込締切後に、事務局が発表資格を確認します。発表資格がない発表者が含まれる発表課題は、受理できませんのでご注意ください。

＊入会手続き・会費納入が完了していない発表者を、共同研究による発表課題の発表者名から削除してほしいという依頼は受け付けません。

４）発表件数

筆頭での発表は１本までとします。

５）発表申込方法　申込締切：日本時間 2027 年１月 14 日（木）13 時

所定の発表申込フォームに必要事項を記入し、会誌原稿ファイル、チェックリストをアップロードして提出してください。なお、ファイル名はこちらの指定したものにしてください。（詳しくは後述「１１）会誌原稿執筆要領　11-2）執筆要領」をご覧ください。）

発表題目、発表者名、所属は、会誌原稿と同一にしてください。一致しない場合、発表申込フォームに記入されたものを正式なものとみなします。

発表申込時の必要事項は以下の通りです。*は必須項目です。

① 筆頭発表者名・所属*

（名前は姓名の順に入力してください。大学院生、学部生の場合、「○○大学大学院生」「○○大学学部生」と入力してください。）

②筆頭発表者名フリガナ*

③筆頭発表者メールアドレス*

④第二発表者名・所属

（フォームの設定で「任意」と表示されますが、第二発表者がいる場合、④⑤⑥は必ず記入してください。）

⑤第二発表者名フリガナ

⑥第二発表者メールアドレス

⑦第三発表者以降の名前、フリガナ、所属
（第三発表者以降の発表者がいる場合に必ず記入してください。）
⑧発表資格に関する確認*
（発表者全員につき、先述 3-2）発表資格の有無ならびに会員番号をお尋ねします。）
⑨発表題目*
（副題がある場合、副題も含めてすべての題目を記入してください。）
⑩発表要旨（300 字程度）*
⑪会誌原稿（ワードファイル）*
ファイル名を「JLEM2703（筆頭発表者名)」としてください。
例：JLEM2703（横浜太郎）
⑫会誌原稿（PDF ファイル）*
ファイル名を「JLEM2703（筆頭発表者名)」としてください。
例：JLEM2703（横浜太郎）
⑬JLEM 会誌原稿チェック項目シート（エクセルファイル）*
ファイル名を「JLEM 会誌原稿チェック項目シート 2703（筆頭発表者名)」としてください。
例：JLEM 会誌原稿チェック項目シート 2703（横浜太郎）
⑭発表時間帯の希望*
⑮その他
発表者名が旧字等により正しく入力できなかった場合は、会誌原稿記載のお名前に合わせてこちらで修正します。その必要がある場合には、その方のお名前（新字体）をこちらにご記入ください。

＊発表申込は、以下のフォームよりお願いいたします。
https://pro.form-mailer.jp/fms/91bc6d03357914
＊フォームに記入した発表者名と会誌原稿のそれとに齟齬がないかご確認ください。
例１　フォームではアルファベットで、会誌原稿ではカタカナや漢字で表記している。
例２　フォームでは１名の発表者を記載し単独発表として届け出ている。一方、会誌原稿には２名以上の発表者が記載され共同発表となっている。
＊共同研究による発表課題は、全発表者を漏れなく・確実に届け出てください。
＊会員番号が不明の場合、以下の手順でご確認ください。
https://secure.jlem-sg.org/
「JLEM 会員専用サイト　会員ログイン」→「ログインアシスタント」→
必要事項を入力、送信
＊発表申込時の筆頭発表者メールアドレスを、お間違えなくご入力ください。
＊フォームを送信され申込が完了すると、「JLEM 第 68 回研究会　発表申込を受け付けました」という件名の自動返信が、筆頭発表者メールアドレスに届きます。届かない場合、すみやかに happyo@jlem-sg.org　までお知らせください。アドレスの入力が誤っている可能性があります。
＊入力情報に誤りがある場合は、フォームを再度送信するのではなく、
happyo@jlem-sg.org　まで修正事項をお知らせください。

＊会誌原稿の執筆については、後述「１１）会誌原稿執筆要領」をご参照ください。

６）研究会当日の発表者数

共同研究による発表課題に人数の制限はありません。

７）発表用ポスターの事前提出

不要です。

これまで、オンライン開催、対面からオンライン開催に切り替わる可能性がある研究会では、発表用ポスターの PDF ファイル事前提出をお願いしていました。今回は対面でのみの開催となるため、ご提出を求めません。

８）発表用ポスターの仕様

最大で A0 版（横 840 ㎜　x　縦 1189 ㎜）に収まるようにご作成ください。それ以外の指定事項はありません。

９）今後のスケジュール

今後のスケジュールは以下の通りです。いずれも 2027 年の日付です。

1 月 7 日（木）発表者の会費納入、入会手続き期限

1 月 14 日（木）13:00　発表申込受付締切

2 月 2 日（火）～2 月 4 日（木）15 時　暫定版プログラムによる発表時間帯、発表順確認

3 月 22 日（月祝）第 68 回研究会＠立命館大学

１０）発表申込締切後の要確認・要連絡

申込締切後、会誌編集委員より以下の連絡をいたします。締切後約 1 か月は確実に連絡が取れるようにしておいてください。

―原稿の受理

―該当する発表者（共同発表の方々は筆頭発表者にのみ）に原稿の修正、再提出依頼

１１）会誌原稿執筆要領

11-1）ページ数

「JLEM フォーマット 2703」に沿い、2 ページに収まるようにご執筆ください。所定のページ数を越えたものは掲載しません。

11-2）執筆要領

当研究会ウェブサイトより最新の「マニュアル」「フォーマット」「チェック項目シート」をダウンロードしてください。これらは開催のたびに改定を重ねており、以前のものから何かしらの変更があります。第 68 回研究会に向けては、必ずファイル名末尾が 2703 となっているものをお使いください。

http://jlem-sg.org/announcement.html

ダウンロード後、「JLEM 会誌原稿作成マニュアル 2703」で執筆要領を理解する→「JLEM フォーマット 2703」に直接書き込む形で原稿を作成する→「JLEM 会誌原稿チェック項目シート 2703」に沿って点検する、と進めてください。そうでないと書式がフォーマットに合わなくなる可能性があります。

11-3)執筆に関する注意点

・申込時の提出原稿を最終版とみなします。提出後は、発表者からの依頼による原稿の修正や差替ができないことにご注意ください。
・編集委員の指定した期日までに修正稿が提出されなかった場合、発表を辞退したものとみなします。
・日本語教育にどのように関連し、日本語教育方法の発展にどのように寄与するか明確に書いてください。
・データ、結果の考察を含めてください。「結果については後日、研究会で発表」というような書き方をせず、論文として完結した体裁を取ってください。
・発表予稿集ではなく会誌のため、本文では、「本発表は」「発表者は」などという表現ではなく、「本研究は」「本稿は」「筆者は」などの表現を用いるようにしてください。
・提出された原稿は B5 判に縮小印刷されます。鮮明な原稿をご用意ください。特殊な記号や文字をご使用の場合もご注意ください。図、表についても同様です。
・フォーマットの文字間・行間等の設定は変更しないでください。
・作成後は、原稿を一度印字し、文字間・行間の広さがフォーマットと同様になっているか、図表が不鮮明になっていないか等、ご確認ください。
・投稿された原稿の中には、所定の「JLEM フォーマット」が使用されていないものや、「JLEM 会誌原稿作成マニュアル」のルールから大きく逸脱しているものが見受けられます。編集作業の負担が大きいと判断される場合、やむを得ず申込みの取り下げをお願いすることがあります。提出前には必ず「JLEM 会誌原稿チェック項目シート」を活用し、原稿の最終確認を行ってください。

11-4) 日本語による題目・氏名・所属、および英文による題目・氏名・所属

・日本語による題目・氏名・所属は会誌目次と会誌本文、英文による題目・氏名・所属は会誌本文に掲載します。
・発表申込時に記載する題目・氏名・所属は、会誌原稿と同一にしてください。
・題目、著者（発表者）は、発表申込フォームに記入されたものを正式なものとみなし、その後変更できないことにご注意ください。

11-5) 英文要旨

・英文要旨は 100 ワード程度で、発表申込時に記載する和文要旨と同一の内容にしてください。ただし、一言一句対応したものでなくてもかまいません。
・英文の題目および要旨に関しては、必ずネイティブチェックを受けてください。また、日本語非母語話者の方は、本文のネイティブチェックを忘れずに受けてください。

・「結果については後日、研究会で発表」というような記述にはしないでください。
・本文同様、「本発表は」「発表者は」などという表現ではなく、「本研究は」「本稿は」「筆者は」などの表現を用いるようにしてください。

１２）会誌原稿のジャーナル公開サイト掲載の承諾

会誌発行から半年を経過したものから逐次ジャーナル公開サイト(J-stage)に掲載し、「無償公開」といたします。その手続きの一環として、発表申込と同時にジャーナル公開サイト掲載をご承諾いただいたものとして取り扱います。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

１３）口頭発表について

ご提出いただいた原稿の中から、全体会での口頭発表（発表９分+質疑応答２分）に適していると思われるものを事務局で選ばせていただきます。どなたにお願いするかは、暫定版・確定版プログラムでお伝えします。

なお、口頭発表をされる方にも、ポスター発表をしていただきますので、お間違えのないようにお願いします。

以上、よろしくお願いいたします。